

令和4年度 大王谷学園 学校関係者評価書

1 学校経営理念

- (1) 「行ってよかった・行かせてよかった・あってよかったと実感してもらえる学校」をスローガンに、目指す児童生徒像である「自立」「貢献」を柱とした教育活動を推進する。
- (2) 全職員で「当事者意識」「相手意識」「形式よりも内容・結果重視」「一人ではなくチームで取り組む」「一貫校職員の一体化」を意識して、全教育活動に取り組むことで、学校教育目標の具現化を目指す。

2 学校教育目標

『一人前の社会人・職業人、地域人、家庭人の育成』

3 目指す児童・生徒像

「自立・貢献」できる児童生徒

4 重点項目と主な取組

重点項目	主な取組
(1) 楽しい学校	<input type="radio"/> 児童生徒の活動の自主的運営への支援 <input type="radio"/> 児童生徒のがんばりを認め、称賛する取組 <input type="radio"/> 諸行事の企画運営への参画
(2) 学力向上	<input type="radio"/> 分かる授業と指導の工夫 <input type="radio"/> はげまし隊や花まる先生の活用 <input type="radio"/> 家庭学習の充実
(3) あいさつ・返事	<input type="radio"/> 児童会・生徒会活動の充実 <input type="radio"/> 家庭・地域との共通理解・共通実践 <input type="radio"/> 常時指導の充実
(4) 自立・貢献	<input type="radio"/> 道徳教育の充実 <input type="radio"/> 当番・係活動や委員会活動の充実 <input type="radio"/> 家庭・地域との連携
(5) キャリア教育	<input type="radio"/> ねらいや学びのつながりを意識した教育活動の展開 <input type="radio"/> 地域人材の活用 <input type="radio"/> 体験活動の充実
(6) 小中一貫教育	<input type="radio"/> 小中合同企画会における情報交換 <input type="radio"/> 行事等における小中の連携 <input type="radio"/> 小中一貫を意識した取組の充実
(7) コミュニティ・スクール推進	<input type="radio"/> 学校運営協議会の充実 <input type="radio"/> 児童生徒の地域での行事・活動への参加啓発 <input type="radio"/> 学校での活動等の情報発信

5 評価 【4…達成 3…おおむね達成 2…少し改善を要する 1…大いに改善を要する】

重 点 項目	学校の自己評価		学校運営協議会委員	
	結果分析及び対応策等	評価	評価	コメント
(1) 樂 し い 學 校	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍ではあったが、行事等を単に中止ではなく、工夫して実施し、昨年度より前進することができた。 ○ 児童生徒への称賛に関しては、児童生徒・職員どちらも、アンケート結果では肯定的な回答が多く、児童生徒のがんばりやよい行いに対して、称賛できていることがうかがえる。今後も、意識的に機会を捉えて称賛していきたい。 	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・この数年間、コロナ禍でいろいろな制限のある中、児童生徒が学校生活を楽しくできるように考え方をされてきたことがよく分かる。 ・行事等、ぎりぎりまで可・不可の判断をされており、昨年度より前進できてよかったです。 ・先生方が、行事等を工夫して実施していることを一保護者として感じた。 ・5月からコロナ感染が5類へ移行となった後のことをよく協議し、コロナ前の行事等がたくさん行えるように期待する。
(2) 學 力 向 上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力調査・県学力調査等の各調査の分析を行い、児童生徒の課題や学年ごとの系統性をもった指導方法の工夫改善に取り組むことができた。 ○ はげまし隊についてはコロナ禍の影響で活用できなかつたが、花まる先生については活用でき学習の定着に効果が出ている。 ○ 家庭学習については、保護者の意向も踏まえ、「家庭学習の在り方」について再度検討が必要である。 	3.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、数字上の結果だけではなく、個々のやる気を高める取組をしていただきたい。 ・学年によっては、CRTテストの結果で、全国平均を下回った教科もあるので、今後の改善に期待する。 ・参観日の様子を見せていただく中で、集中して授業を受けている姿が見受けられた。 ・はげまし隊については、いつでもスタートできるように準備ができているということである。花まる先生には、感謝あるのみである。 ・次年度、はげまし隊の活動を実施できるとよい。 ・家庭学習は、保護者を含め、いろいろな意見を聞いて検討をお願いしたい。 ・学校だけではなく、家庭での教育（勉強）にも工夫が必要である。

(3) あ い さ つ ・ 返 事	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ・返事に関するアンケートの結果を見ると、児童と保護者の評価に開きが見られた。児童はできていると感じているあいさつが、保護者からはもう少しだと捉えられている。 ○ 中等部生徒のあいさつ・返事は、日常的によくできている。初等部児童の学校外でのあいさつがもう少しである。生活委員会を中心とした「あいさつ運動」をさらに推進していく必要がある。 ○ あいさつについては、学校での常時指導を充実させるだけではなく、家庭・地域とも連携を図りながら、力を入れていく必要がある。 	3.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部は、風紀の乱れもない。先生と生徒が一緒になって取り組んでいる結果だと思う。 ・朝の登校時、初等部児童にこちらからあいさつをすると返ってくるが、自ら進んでという視点では個人差が見られる。中等部の生徒は自ら積極的にあいさつできる。 ・「あいさつされて返すより、自分の方から大きな声であいさつを！」心がけ、私たちからも積極的にあいさつ・返事を心がけたい。 ・地域と子どものつながりが見えない。コロナ禍の影響だろうか。保護者の地区行事参加も少ない。
(4) 自 立 ・ 貢 献	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立についての児童生徒・保護者アンケートの結果から、学校ではできいていても、家庭では自分のことを自分でできている児童生徒が多いことが分かる。学校と家庭が連携して、できたことをしっかり讃めながら育っていく必要がある。 ○ 貢献についてのアンケート結果から、学校やクラス、地域のために役立つことができていないことが分かる。今後は、学校や地域に対する「貢献」について、働きかけが必要である。 	3.3	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において環境やルールが変わる中、自分自身で考える機会が増え、以前より自立・貢献が進んだと感じる。 ・近年だけの問題ではないと思うが、兄弟も少なく家庭内の会話が無くなっているのではないだろうか。PTAの協力が必要だろう。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育に関するアンケートの結果から、児童生徒にとって、本学園のキャリア教育が、将来に向けて学ぶことや働くことについて考える機会になっていることが分かる。 ○ 総合的な学習の時間や学級活動などの時間において、キャリア教育のねらいや学びのつながりを意識した教育活動を行うことができた。 	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用したキャリア教育は、学校と地域双方にとってプラスの効果があり、とてもよいと思う。 ・大王谷子どもフェスティバルで保護者によるキャリア教育はとてもよかったです。今後も時期ややり方を検討していきたい。 ・学校運営協議会の報告からも、いろいろな計画と取組をしていることや、児童生徒にとって学びにつながっていることが伝わってきた。 ・親が働いてくれるおかげで生活が成り立っていることなど、いろいろな学びをしてもらいたい。 ・講師より、子どもたちの真剣さがよく伝わってきたとお誉めの言葉をいただいた。
(6) 小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育についての保護者アンケートの結果から、小中一貫教育に関して、肯定的な評価が低かった。小中一貫教育の取組を、ホームページや学校だより等で発信していく必要がある。 ○ 小中一貫教育のよさが発揮されるように、初等部と中等部で、さらに連携を図りながら教育活動を進めていく必要がある。 	2.8	2.1	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間、同じシステムや環境で児童生徒の発達段階に応じて小中一貫に（併設型→一体型）育成できる教育を目指せるとよい。 ・小中一貫の魅力を発信できるよう、中等部との連携を深めたい。 ・児童生徒だけでなく、先生、保護者含めて再検討が必要と思う。例えば、スポーツ少年団と部活動のつながりをもたせてみてはどうだろうか。

(7) コミュニケーション・スニーケン・ル・推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間5回の学校運営協議会を実施し、児童生徒の様子や学校行事等、情報交換したり、協議したりすることができた。 ○ コロナ禍の影響により、予定していた地域の行事等が中止になり、学校・地域・家庭の連携が難しかった。 ○ マチコミメールや学校ホームページ、学校だより等を通して、学校の取組やお知らせを発信してきたが、出欠の確認等ICT化を模索していく必要がある。 	3.1	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への発信は、とくに必要であると思う。 ・大人（高齢者を含む）が忙しくなっている。大人がゆとりをもっていない。生活する上で、生涯働かないといけない環境になっているので、地域と学校が疎遠になっていると感じる。 ・本年度も、コロナ禍の影響で、学校・地域・家庭の連携が難しかった。しかし、昨年度よりも緩和されたと思う。そんな中、オンラインでの会議参加、マチコミメール、学校ホームページ、学校だよりなどは、情報交換や協議等に利用できた。 ・学校と家庭の連携は、ある程度できていると感じたが、地域での活動に対し、各地区での差もあり、今後より深く連携できるように検討していくたい。